

令和6年度 宮城教育大学学校推薦型選抜

専攻別課題

【初等教育専攻】

問題冊子

令和5年11月25日 午前9時45分 ～ 11時15分

注意事項

1. 問題冊子は表紙を含めて2枚、資料は表紙を含めて5枚です。問題は全2問です。
試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
2. 解答用紙は合計2枚です。問題の解答は、解答用紙の所定の欄に、必ず黒鉛筆
またはシャープペンシルを用いて記してください。
3. 問題冊子・解答用紙に印刷不鮮明の箇所があった場合には申し出てください。
4. 解答の下書き用に、白紙の下書き用紙を2枚配付します。適宜活用してください。
5. 問題冊子、資料、ならびに、下書き用紙は回収しません。

問1 資料1をもとに、以下の問いに答えなさい。

- (1) 傍線部①と傍線部②の内容を例に用いて、図 1-1 のグラフを 4 行程度で説明しなさい。
- (2) 傍線部 A をもたらす地球の運動を何というか、答えなさい。
- (3) 著者の考えをもとにすると、動物は一生の間におおよそ何回呼吸するか、答えなさい。
- (4) 著者の考える「動物の時間」とはどのような時間か、4 行程度で説明しなさい。

問2 資料2をもとに、「新しい時間の見方」と学校教育の在り方について、あなたはどのように考えるか、15 行程度で述べなさい。

資料

出典：本川達雄著 『「長生き」が地球を滅ぼす 現代人の時間とエネルギー』
文芸社文庫 2012年

資料1

まず動物の時間について考えてみましょう。

動物の時間？ 時間とは時計で計るもの、すべてに共通で、何ものにも影響を受けず一定の速度で流れていくもの、こういうものが時間です。いくら動物だからといって、こと時間に関しては何も特別なことなどないはずで、ゾウが腕時計をしていてもネズミが腕時計をしていても同じ時刻を示します。

三次元の空間に時間の次元を加えた四次元の世界の中で、すべてのものは存在しています。生物だって例外ではありません。時間とは、空間とともに存在の枠組みを形成しているもつとも基本的なものなのです。時は万物を等しく駆り立てていくものという、無機的でなんとも非情なイメージがありますが、生物にも非生物にも、有情のものにも非情のものにも同じ時間が流れており、非情で容赦がないからこそ、万物に共通な枠組みが保証され、私たちは安心してその中で生活していけるわけです。

私もずっとそんなふうを考えていました。でも、動物のサイズのことを勉強しているうちに、ひよっとすると時間は動物ごとに違うのではないかと思うようになってきました。動物には独特の時間のデザインがあり、時間ですら、動物が関わってくると唯一不変というわけにはいかないようなのです。

小さい動物ほど心臓は速い

私たちの体の中で、あ、時間が刻々とたっているなど実感できるのは、なんといっても心臓の拍動でしょう。舞台上立つときなど、心臓がドキドキと高鳴って、その一拍ごとに出番が近づいてきます。こんなときには、まさに心臓が時をつむぎ出しているような気にもなるものです。

私たちの心臓は一分間に六〇〜七〇回のペースで、かなり規則正しく打っています。心臓が一回ドキキンと打つ時間を心周期と呼びますが、ヒトではおよそ一秒です。

心臓といえほどの動物でもこんなペースかと思うと大間違いです。小さなサイズの動物では、われわれよりもずっと速いのです。たとえばハツカネズミでは一分間に六〇〇〜七〇〇回。一回のドキキンに〇・一秒もかかりません。

サイズの小さい動物では心周期は短く、サイズが大きくなるに従って心周期が長くなります。ハツカネズミでは一回のドキキンが〇・一秒なのですが、もう少し大きいドブネズミでは〇・二秒、ネコで〇・三秒、ヒトで一

表1-1 心臓の1拍の時間(心周期)

	体 重	心周期(秒)
ハツカネズミ	30 g	0.1
ドブネズミ	350 g	0.2
ネコ	1.3 kg	0.3
ヒト	60 kg	1
ウマ	700 kg	2
ゾウ	3 t	3

秒、ウマで二秒、というふうに、サイズの大きいものほど時間が長くなり、ゾウほどの大物になると三秒もかかってしまいます(表1-1)。

子供の頃、お祭りで買ってきたヒヨコの胸のあたりがやけにピクピクと素早く動いていて、これはいったい何だろうかと不思議に思った記憶があります。大学で生物学の実習を受けて、やっと謎が解けました。あのピクピクは心臓の動きだったのです。

心臓の時間は体重の $\frac{1}{4}$ 乗に比例する

大きい動物ほど心臓はゆっくり打ちます。サイズと心周期とは関係がありそうなので、二つの関係を、もつと詳しく調べてみましょう。体の大きさを表すのに体重を使うことにします。体重とは生きている組織の量を表していますから、動物のサイズを表すには、もつともふさわしい量です。

表1-1には体重も書いてありますから、表の数字をグラフに表してみよう(図1-1)。縦軸は心周期、横軸は体重です。目盛りは、縦軸も横軸も、一目盛り増すことに数値が一〇倍になるような対数目盛りにしてあります。

おもしろいことに、このような描き方をすると、点はほぼ直線上に並んでいきます。対数目盛りで直線になるということは、心周期は体重のべき関数で近似できることを意味します。その近似式を図の中に書き入れておきました（中略）。

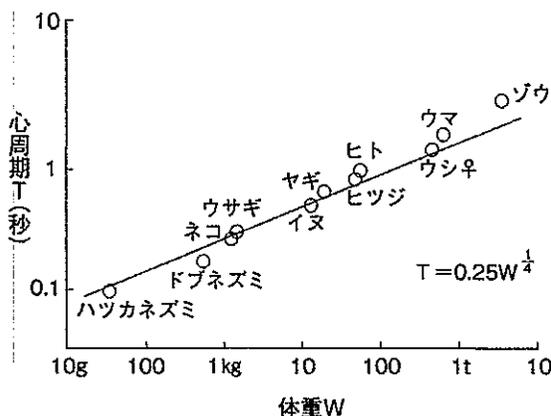


図1-1 心周期 (T) と体重 (W) の関係

表1-2 時間が体重の1/4乗に比例すると、2つの関係は具体的にはどのようなものになるか

体 重	時 間
2倍	1.2倍長くなる
10	1.8
100	3.2
1000	5.6
10000	10
100000*	18

*30gのハツカネズミと3tのゾウの体重の違い

式を見ると、体重を示すWの右肩の上に1/4という数字が乗っていますね。つまり心周期は体重の1/4乗に比例して長くなるのです。

1/4乗とは、どうにも分かりにくい関係ですね。一乗ならば正比例なのですが、それより小さい数字ですから、体重が増えたと時間が余計にかかるようになるのですが、体重に正比例して長くなるわけではなく、体重の増え方よりは時間の長くなり方のほうが小さいのです。

具体的にどんな関係になるかは、表にすれば分かりやすいでしょう(表1-2)。体重が二倍になると時間が一・二倍長くなります。体重が一〇倍だと一・八倍ゆつくり物事が起こります。体重が一万倍だと時間は一〇倍、つまり1/4乗とは体重が四桁増えて時間が一桁長くなるという関係なのです。

それにしても心臓がドキンと打つ時間が、こんな簡単な式で書き表せてしまうのですから、驚きますね。

肺も腸も大きいものほどゆつくり動く

心臓の時間がこんなふうな体重の簡単な式で書き表せるのですが、これは心臓に限ったことではありません。肺だって腸だって筋肉だって、時間はやはり体重の1/4乗にほぼ比例することが分かっています。

いろいろなサイズの動物で息を一回吸って吐くのにどれくらい時間がかかるかを計り、それを先ほどのようなグラフにして近似直線を引き、式を求めてみます。肺の動きは心臓の動きよりゆつくりしていますね。だから式は心臓のものと同じにならないのは当然ですが、でもじつは体重の1/4乗に比例するところは同じなのです。

息を一回吸って吐く間に心臓が何回打つか、ご自身の体で計ってみてください。一呼吸の間に、脈は四〜五回打ちますね。これは私たちだけでなく、他の動物でも変わりません。だから、心臓の時間の式を四・五倍すると肺の時間になります。つまり肺の式でも心臓の式でも体重の1/4乗に比例するところは同じで、違いは比例係数だけなのです。だから体重が二倍のものは一・二倍ゆつくり動く、体重が一〇倍になれば、一・八倍時間がかかるという関係は、肺であれ心臓であれ成り立ってしまいます。

もつと細かいことを言えば、心臓の場合はびつたり $\frac{1}{4}$ (つまり 0.25)乗に比例するのですが、肺の場合はほんのちよつとこの数字がずれ、 0.26 になります。でもこれは誤差範囲とみなせるものでしょう。生きもの相手の実験ですから、いろいろと誤差が入ってきます。また、そもそもばらつきがあるのが生きものというものでしょう。完全に同じというわけにはいきません。(中略)

大きいものほど寿命も長い

ここまでの例は、いろいろな生理的な現象に関わる時間でした。ではもつと長い、一生に関わる時間はどのようなのでしょうか？

ここでもやはり時間は体重の $\frac{1}{4}$ 乗に、ほぼ比例します。成獣のサイズに達する時間、性的に成熟するまでの時間、懐胎期間など、みな体重の $\frac{1}{4}$ 乗にだいたい比例するのです。(中略)

懐胎期間は私たちヒトでは十月十日、ネズミではずっと短くて三週間、ゾウの場合は六〇〇日だから二年近くも胎内に入っていることになりました。やはり体の大きいものほど時間が長く、この場合は体重の $\frac{1}{4}$ 乗にピッタリ比例します。

寿命という時間はでしょうか？ 動物の寿命は計るのが難しく大変な作業なのですが、動物園で事故や病気でなく長生きして死んだもののデータがあります。これも大きいものほど寿命が長く、小さいものは短命であり、体重の 0.2 乗に比例します。体重の $\frac{1}{4}$ 乗(0.25)にほぼ比例するのです。

個体の寿命はこうなのですが、その個体を構成している要素にも寿命があります。生体を構成しているタンパク質は体内で新陳代謝しており、たえずつくられては壊され、つくられては壊されていますので、タンパク質にも寿命があるわけです。たとえば γ -グロブリンという血漿中^{けつじょう}にあつて免疫に関係しているタンパク質では、寿命は体重の $\frac{1}{4}$ 乗にかなりピッタリ比例します。

体を構成している代表的な要素といえば細胞でしょう。細胞にも寿命があります。脳の神経細胞や心臓の筋肉のように、個体とはほぼ同じ長さの寿命をもつ細胞もあるのですが、血球や、皮膚や腸の上皮細胞^{じょうひ}のように、しょっちゅうつくり替えられている細胞もたくさんあります。たとえば赤血球の寿命は、私たちでは一二〇日ほどですが、これは体重の 0.18 乗に比例して長くなり、やはり $\frac{1}{4}$ 乗にまあまあ近い数字です。体の構成要素の寿命においても、体の大きい動物ほど長いのです。

動物の時間は体重の $\frac{1}{4}$ 乗に比例する

今までに掲げたのはほんの一例です。哺乳類や鳥類、つまり体温が一定の恒温動物において、時間に関わる現象と体重との関係が、もつとさまざまな例で調べられてきました。それらの結果は、みな体重の 0.25 乗に比例していると書き表せるのですが、その 0.25 の値は、ほとんどが $\frac{1}{4}$ に近い数字です。それらの数字を単純に平均すると $\frac{1}{4}$ になってしまいます。だから「動物の時間は体重の $\frac{1}{4}$ 乗に比例する」と一般化してもよいと思われれます。

ゾウの時間・ネズミの時間

体重の $\frac{1}{4}$ 乗ですから、体重が二倍になると時間が一・二倍ゆつくりになり、体重が一〇倍だと時間が一・八倍長くなります。

①このような関係が成り立つとすると、体重が一〇万倍違えば、時間は一八倍違ふという計算になります。ちなみにこれは三〇グラムのハツカネズミと三トンのゾウの体重の違いに相当するのですが、だとすると、ゾウではネズミよりも時間が一八倍ゆつくり流れているのかもしれない。(中略)

もちろん動物たちが実際にどう思っているかは分かりません。でも、ゾウとネズミのようにこれだけ生きるペースが違っていけば、たとえすべての動物に万物共通の時間が流れているとしても、その時間のもつ意味や、その時間を使つての生き方が、動物ごとに大きく異なっているのも不思議はない気がします。

ゾウとネズミと、たしかに両者ともこの地球上に生きてはいるのですが、彼らが同じ世界に住んでいるのだと、そう簡単に言い切るわけにはいかないでしょう。いっそのこと、ゾウとネズミは違う時間、違う時空、違う世界の中に住んでいるのだと見たほうが、かえってすっきりするように私には思えます。だからこそわざわざ「動物の時間」という、時計で計るのは別の時間を考えてみたいのです。(中略)

一生に心臓は一五億回打つ

(中略)

生物で時間といえは、サーカディアンリズム(概日リズム)という二四時間の時計に合ったリズムだけが注目されてきました。サーカディアンリズムなら、ゾウリズムシでも植物でも私たちでも、およそ二四時間で、すべてが地球のリズムと同調しており、これなら話はスッキリしています。

こういうすべてに共通のリズムがあつても、もちろんかまいません。あつて当然です。生物は環境に適応しているものですから、地球が二四時間のリズムをもつならば、当然、それに適応して二四時間リズムを示すようになるでしょう。ただしその二四時間が、どの生物でも同じ重みをもっているかを問題にしたかったのです。

そのような意図の下にここまででは、生きものの時間はそれぞれに違う、という点を強調してきましたが、この違うという視点に立つと、逆に生きものは同じだという面が見えてくるという話をこれからいたしましょう。

動物の時間は、だいたいみな体重の $\frac{1}{4}$ 乗に比例しています。すると、何でもいから時間を二種類、組み合わせると一方を他方で割ると、体重の項が消えて定数になってしまいます。

手始めに、呼吸の周期という時間を心臓の周期で割ってみましょう。答えは約四・五(中略)。(これは呼吸を一回する間に

心臓は四・五回打つことを意味します。この関係は体重によりません。ゾウでもネズミでも、そして(先ほど確かめたように)私たちでも成り立つ関係です。

ちよつと不思議な気がしませんか? ②ハツカネズミの心臓はものすごく速く打っています。一回のドキンに〇・一秒もかからないのですし、ゾウでは一回に三秒もかかるのですから、二つはずいぶん違うものでしょう。時計の時間で比べればそうです。でもどちらも、ひと呼吸する間に心臓は同じ回数だけ打つというのです。

では寿命という時間を心臓の時間で割ってみましょう。答えは約一五億。ゾウもハツカネズミも一生の間に心臓は一五億回打ちます。心臓が一五億回打ればどちらも死を迎えることになるのです。

ハツカネズミの寿命は二三年、インドゾウは七〇年近くも生きるものです。時計で計る時間で比べれば、ゾウは桁違いに長生きなのですが、一生に心臓が打つ回数は、どちらも同じ。じつに不思議な事実です。

資料2

代謝時間——新しい時間の見方

メートル法では、測り手である人間ではなく、人間の外に存在する時間や物体が基準となっており、それらが主役として大切にされているのですが、発想を逆にして、測り手を基準にした単位系を考えてみたいのです。測られるものよりも、測るものを主役にした考え方をすることにより、人間に自由を取り戻そうという発想です。

そのような試みとして、「代謝時間」という考え方をしてみましよう。これは、単位時間内に（これは絶対時間）どれだけのエネルギーを使うのか、つまり代謝速度を時間の速度と考えるものです。エネルギーを使えば使うほど生物の時間も社会の時間も速くなるとこれまで考えてきたのですが、逆に時間とはそういうものだと、こっちから（勝手に）定義してしまおうというものです。

単位時間あたりのエネルギー消費量とは、物理学では仕事量に当たります。どれだけ仕事をするかで時間を計ろうとするわけです。

大人のヒトが一秒間に使う体重一キログラムあたりのエネルギーは、安静時で約一ジュールです。一ジュールを使うのに要する絶対時間を代謝時間とすれば、ヒトでは一秒ですが、ネズミなら〇・一五秒、ゾウは二・七秒という計算になります。エネルギーを使うものほど時間は速く進み、代謝時間そのものは短くなるのです。この考え方は、絶対時間で計ったヒトの一秒と、ネズミの〇・一五秒やゾウの二・七秒が、同じ重みをもったものとしてとらえられています。ネズミの一時間はゾウの一八時間に、現代人の一日は縄文人の一カ月ちよつとに当たる、という勘定です。エネルギーをたくさん使った仕事をしたものの代謝時間は長く、エネルギーをあまり使わず仕事をせずのんびりしていたものの代謝時間は長くなります。

子供の時間・大人の時間

私たちは生まれ、成長し、老いていくわけですが、この一生を通して流れている時間も、同じ速度ではないのかもしれない。体重あたりのエネルギー消費量は、子供では高く、老いてくればくほど減っていきます（図4-1）。エネルギー消費量と時間の速さが比例するという代謝時間の考えに立てば、子供の時間は速く進み、大人の時間は遅く、老人の時間はもつとゆっくりということになるでしょう。

たしかに自分自身を振り返ってみると、時間の感じ方は年とともに変わってきました。子供の頃の夏休みはものすごく長かったし、一日もとても長く感じられたものです。最近はとみに一日が速く過ぎ去っていきますね。

この違いは、エネルギー消費量と関係した時間で説明できそうな気がします。つまり、子供はエネルギーをたくさん使って時間が速く進むから、一日二四時間という同じ絶対時間の間に、子供は大人よりもいろいろなことをやってたくさん経験がもてます。だからこそ子供は一日が長かったと感ずるのではないのでしょうか。

速い時間は、後から振り返ると長い時間と感ずられるのだと思います。時間はそのただ中に入っているときと、後から振り返って思い出すときとは、はやさの感覚が逆転するのだと私は思っています。

成長における代謝時間の変化を図にしてみました（図4-2）。代謝時間は年とともに長くなります。二〇歳までの変化は急激で、それ以降はゆっくりと代謝時間が長くなっていきます。

子供の一時間が、大人のほぼ二時間に当たります。大人では子供に比べて時間が二倍ほどゆっくりなのです。

学校の授業は一コマが、小学校では四五分、大学では九〇分で行われています。子供の頃には、大学生って偉いんだな、あんな難しい話を九〇分もじっと聞いていられるんだものと、尊敬の念をもっていました。でもそう思う必要はなかったのかもしれない。大学生の時間は、いってみれば密度が半分。九〇分でちょうど小学生の四五分と同

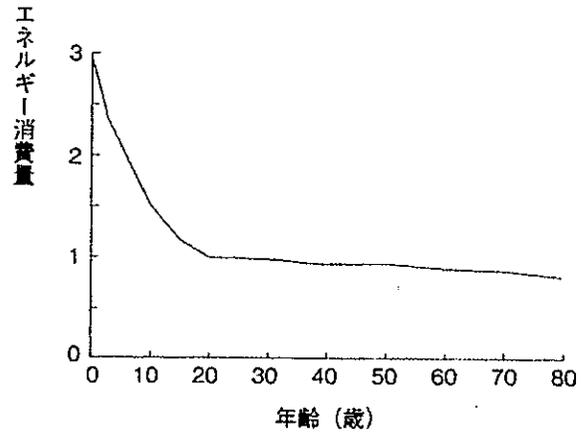


図4-1 ヒトのエネルギー消費量と年齢
20歳を基準にした相対値で示してある。体重あたりのエネルギー消費量は年齢とともに減少する

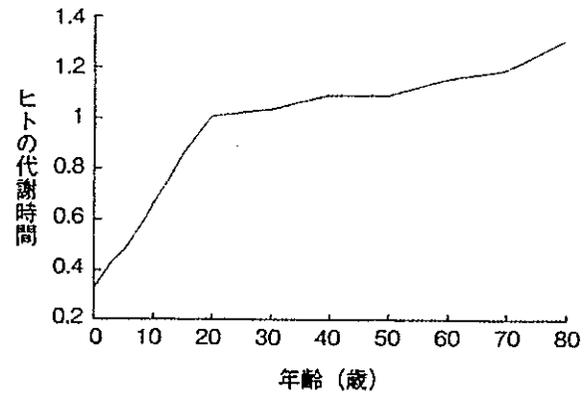


図4-2 ヒトの代謝時間と年齢
1日のエネルギー所要量をもとに計算し、20歳を基準にした相対値で示してある。代謝時間は年齢とともに長くなる

じ仕事量になります。大人の時間は、いわば半分スカンスカンなのです。だからこそ長い授業でもがまんできるのでしょうね。世の中の仕組みは、ちゃんとなっています。

この例でも分かるように、私たちは経験的に時間の違いを感じとり、それなりの配慮をしてきたのだと思います。でも、意識的に時間が違うと考えるのは、また別のことです。代謝時間がどれほど違うのかを定量的に把握しておくことは、子育てや教育の現場において、ぜひとも必要だと思えます。老人介護でも同じです。

子供の時間と老人の時間とは、大いに違うものかもしれません。それぞれの年齢に合った時間があってもいいし、時間が変われば価値観も変わるでしょうから、その年齢に本当に合った価値観が生まれてきてほしいと思われまます。現代は、時間は一つと考えてしまいます。そしてどれか一つを選択するとなれば、どうしても元氣な青年の時間が選ばれてしまっているでしょう。価値観も、若い元氣な速いのが良いとするものだけになってしまっています。このような若者の時間・若い価値観ばかりが幅をきかせている現代では、老人や子供の立つ瀬がないような気がします。

令和6年度 宮城教育大学学校推薦型選抜

集団面接

【初等教育専攻】

問題冊子

令和5年11月25日 午後1時00分 ～ 4時00分

注意事項

1. 問題冊子は表紙を含めて6枚です。試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
2. 解答用の画用紙は合計3枚です。
3. 問題冊子に印刷不鮮明の箇所があった場合には申し出てください。
4. 下書き・メモ用に、白紙の下書き用紙を4枚配付します。適宜活用してください。問題冊子と下書き用紙は回収しません。

令和6年度 宮城教育大学学校推薦型選抜
集団面接(初等教育専攻)

集団面接は3つのパートに分かれています。資料を読んで課題に取り組んでください。

資料は「令和5年度全国学力・学習状況調査」小学校第6学年国語の調査問題(問題番号 **1** 二)の抜粋です(全3ページ)。

第1パート

課題1

この調査問題について、あなたが考える正答を画用紙の1枚目に記入してください。また、この問題について、小学校6年生が正答に至らないとするとそれはなぜか、画用紙の2枚目にまとめてください。

課題2

課題1を踏まえ、もしあなたが小学校6年生の担任だったら、授業や日頃の子どもとの関わりの中でどのような工夫や取組をしていきたいですか。具体的な場面と工夫・取組の内容がわかるように、画用紙の3枚目にまとめてください。

課題3の準備

後述する課題3のための準備をおこなってください。

第2パート

課題3(個人発表)

課題1と課題2でまとめた画用紙を用いながら、発表してください。一人の発表時間は3分です。

第3パート

課題4(話し合い)

課題3の個人発表を踏まえ、適宜、論点を設定して、話し合いをしてください。

出典:国立教育政策研究所「令和5年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について」より一部抜粋

<https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>(最終アクセス日 2023年9月7日)

資料

【カード①】

6月24日

- ・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
- ・このまま雑草が増えたら米のしゅうかくにえいきょうするのではないかと心配だ。

【カード②】

6月30日

- ・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。
- ・調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
- ・調査きかん 7月1日～15日

【カード③】

7月19日

- ・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。
- ・雑草の量と米のしゅうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。

【カード④】

7月20日

[農家の石山さんのお話]

- ・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。
- ・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
- ・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】

7月21日

[学校でできる解決方法]

- ・雑草取りの回数を増やす。
- ・雑草取りの人数を増やす。

【川村さんの考え】

雑草が増える問題が起きたけれど解決してよかったな。米作りのときに記録していたカードの中から選んだカードをもとに、米作りに興味のある人に向けて、問題点とその解決方法を書こう。



川村さん

1

川村さんは、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書こうとしています。次は、「川村さんの考え」と川村さんが選んだ「カード①」から「カード⑤」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

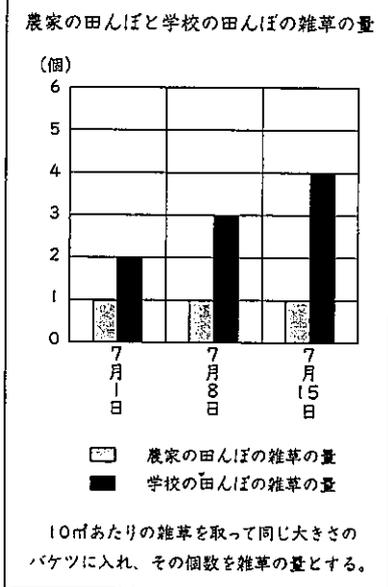
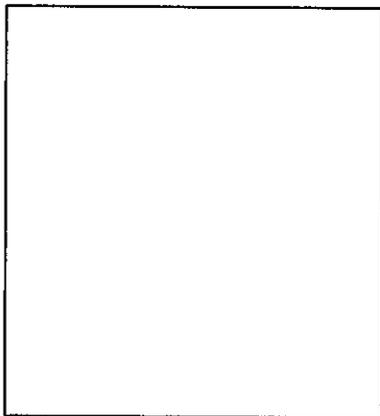
【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしゅうかくすることができました。しゅうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下じゅんに学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、アいがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとイくらべてみました。ウきかんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。



このようなことに取り組み、9月の下じゅんにお米をしゅうかくすることができました。

二 川村さんは、選んだカードをもとに、次の【川村さんの文章】の問題点とその解決方法について書こうとしています。あなたが川村さんなら、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましよう。

に学校の米作りの
に入る内容を

〈条件〉

- 学校の米作りの問題点については、「川村さんの文章」のグラフ（農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量）と「カード④」のそれぞれから分かることを書くこと。
- 問題点の解決方法については、「カード⑤」をもとにして書くこと。
六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

◆									

※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。
解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

令和6年度 宮城教育大学学校推薦型選抜

専攻別課題

【特別支援教育専攻】

問題冊子

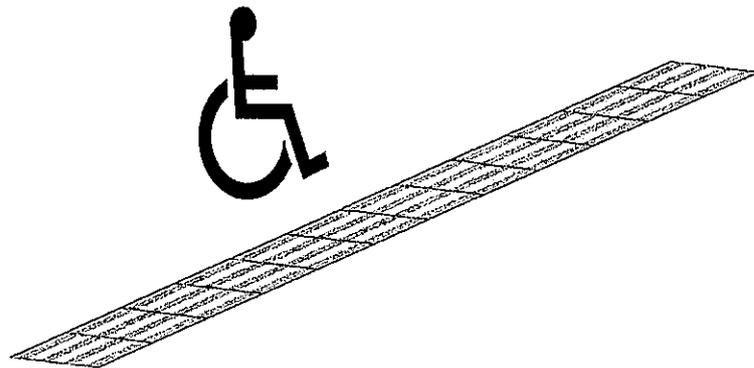
令和5年11月25日 午前9時45分～11時15分

《注意事項》

1. 問題冊子は表紙も含めて4枚です。試験開始の合図があるまでは問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答は、解答用紙に記入してください。
3. 解答用紙は3枚です。各問の解答は、解答用紙の所定の欄に黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入してください。
4. 問題冊子・解答用紙に印刷不明な箇所があった場合には申し出てください。
5. 解答の下書き用に、白紙の下書き用紙を2枚配付します。適宜活用してください。
6. 解答用紙の交換は、汚損・破損により記入・視認が困難になった場合に限るので、十分に下書きした上で記入するようにしてください。

社会的障壁とは、障害のある人にとって、日常生活や社会生活を送るうえで障壁（バリア）となるようなものを指す。共生社会を目指す上で、この社会的障壁の除去は重要な課題である。このことについて考えてみよう。

点字ブロックを敷設するという配慮は、視覚障害者にとって障壁を無くすものになる。一方で、段差を生じさせることで車椅子利用者などにとっては障壁を増やすことになる。このような、ある障害のある人に対する障壁を無くそうとすることが、他の障害のある人の障壁を増やしてしまうことが生じるかもしれない。ここではこのような事態を「衝突」と呼ぶこととする。



問1 このような「衝突」事例には、例示したもの以外にどのようなことがあるだろうか。配慮事項と「衝突」の影響を受ける障害領域が分かるように具体的に2つ示しなさい。

注：ここでは障害を特別支援学校教員免許の5領域である、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱のいずれかとする。障害の状態は様々なので、「車椅子を使用する肢体不自由の人」のように、利用者が想定できる程度の絞り込みをして構わない。

問 2 例示した点字ブロックについては、一つの解決策として、「車椅子の通る部分だけ点字ブロックを敷設しない」ということが行われている。しかし、これも下手をすると点字ブロックが使えなくなり視覚障害者にとっての障壁になってしまう危険がある。それゆえ、どのようにすればいいのかの検討が必要である。そこでこのことを課題として設定し、探究することとする。あなたならどのように探究を進めていくか、計画を考えなさい。その際、

- ・情報の収集：(何のために、どのような情報、資料、データ等を収集するか、など)
- ・整理・分析：(どのような方法で分析するのか、どのような結果が想定されるのか、など。)
- ・まとめ：(結果のどのような点に基づいて、こうするのがよいと考えられる、という結論に達するのか)

という 3 項目に分けて記述すること。また、自分のためのメモ書きではなく、この計画に基づいて他者がそのまま実行できることを想定して記述しなさい。

字数は指定しないが、解答用紙 2 枚以内に収めること。

令和6年度宮城教育大学学校推薦型選抜

特別支援教育専攻
集団面接課題

令和6年度 特別支援教育専攻 集団面接課題

皆さんには、「通常の学校の小学校1年生のクラスの担任」という想定でインクルーシブ教育の観点でどのように授業を行うかを考えてもらいます。

インクルーシブ教育とは、障害のある子どもと障害のない子どもが共に学ぶこと、そして、子ども一人ひとりの多様な教育的ニーズに適した教育を行うことを言います。

クラスには、何らかの障害のある子どもが在籍しています。障害の名前や人数等について特に設定はしませんので、皆さんで任意に決めてください。国語科教科書のある単元について以下のような内容で授業を行います。どのような授業を行うかを考えなさい。

ただし、次の4点に留意すること。

- ① 授業は、教科書の単元のねらいにもとづいて進めること。ねらいがあることによって、子どもたちが授業のねらいに到達できたのかを評価することが可能になるため。一般に授業は、その時間のねらい・評価（ねらいを達成できたかをどのように判断するのか）・展開（どのような流れでどのように授業を進めるのか）によって構成される。
- ② 自分の担当するクラスにどのような障害の子どもがいるのかをできるだけ具体的に想定して考えること。障害の種類や人数は任意とする。
- ③ 障害のある子どもも授業を受けていることを踏まえ、単元の内容や進め方をどのような方法で行うかを考えること。ただし、単元のねらいは変更しない。
- ④ メモにある検討する項目を参考に検討すること。なお、メモは、評価の対象にならないので、自由に使ってよい。

単元「みいつけた」のねらい

・問いと答え、事柄の順序を考えながら、内容の大体を読むことができる。

・小さな生き物の見つけ方について、自分の経験をもとにまとめ、友達に発表することができる。

みいつけた

わたしたちの まわりには、
ちいさな いきものが います。
どう したら、みつける ことが
できるでしょうか。



みんこむし

だんごむしは、
にわや こうえんに います
だんごむしは、くらくて
しめった ところが すきです
おちばや いしを どけると、
みつける ことが できます。

せみは、
木の みきや えだに とまって います
せみは、よく なきます。こえが
きこえる ところを さがすと、
みつける ことが できます。



ばったは、くさはらに います。

ばったは、すぐには

みつける ことが できません。

ばったの いろが、くさの いろと

にて いるからです。

ひとが ちかづくど、

ばったは、おどろいて

とびたちます。それで、

みつける ことが できません。



(こくご 一年上 かざぐるま 文部科学省検定教科書 小学校国語科用
平成 23 年 2 月 5 日発行 光村図書出版株式会社編集部)